

# 土曜 ライフ・楽しむ

## 怪しい「テレ」ワークに用心

# わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利さん



契約書には「お客様からの信頼を第一と考え、個人に関する情報を正確、かつ機密に取り扱うことは弊社にとって重要な責務と考えている」とありますが、結局、社内調査をしたとも言うてこないし、何ら解決策を提示してもきません。ただ彼らに対する不信感だけが残りました。

テレワークとは、情報通信

技術を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方を指します。東京で会社を経営する友人が今回のコロナ騒動で「大きな犠牲とともに学んでいるのは、テレワークという新しい働き方の予行演習ができたこと」と聞かせてくれました。彼の前向きな言葉にうれしくなりましたが、このテレ(フォン)ワークには非常に迷惑しています。

い。「ところで今日の用件は何?」と尋ねると、「ずばり営業の電話です。今のままで満足していますか。当社に乗り換えますか」と言うのです。「満足しているので結構」と電話を切りました。

すぐ件の情報関連会社に連絡すると、他にも同様の事例があるらしいのですが、あまり大ごとには感じていない様子です。社内の誰かが情報を漏らしているのでは、とただしても、「私たちも同じような営業電話をするし、お互い様。内容は推察でしょう。当社には漏らすような人間はいません」と自信たっぷりに言うので驚きました。

毎日おびただしい数のメールが届きます。そのほとんどが「絶対にもうかる」などいかにも怪しいもの、あるいはひわいなものばかり。さらに有名な企業名で「アカウントが間違っている」と再登録のためにホームページに誘導するものもあり、これが本家とほぼ同じ体裁でよくできているのです。その頭と技術をもっと良いことに使えよと思いますが、だまされる人がいるから止めないのでしょうか。

メールは記録として残るので重宝します。しかし、必要なメールがこれら迷惑メールに紛れ込むこともあり、仕分けに苦労しています。

電話での勧誘もたくさんあります。通信、金融、不動産、事務機器関連が四天王です。今は対面での営業活動が自粛のためか、以前より増えたように感じますが、不要な番号を「迷惑電話」として登録できる電話機に替えて対応しているので、2度目がなくなり、少し楽になりました。

○○○

そんな中、1本の電話がありました。私を名指しし、当社の取引先の情報関連会社の依頼でかけてきた態です。関係者でなければ知れない情報を含み、詳細で、確かに内部の人間だろうなと思わせるものです。しばらく話を聞いていましたが、どうもおかし